

平成 28 年度事業報告

【 概要 】

平成 23 年 4 月より社団法人から公益社団法人となった日本文藝家協会は、今期は創立 90 周年の節目でもあり、協会の社会的な使命がより定まってきたことを実感する年となった。開設して 47 年の「文學者之墓」はすでに 800 余名の文芸家の名が刻まれ、毎年、墓前祭に多くの遺族、参列者が訪れる。老朽部分の修繕工事を今期から開始した。今期も 2 回実施した「各都市巡回文藝イベント」はいずれも盛況であり、地方会員との交流に貢献している。また、実作者の権利擁護や著作権思想の普及活動、「著作権評価に関する意見書」の作成など相当の信頼を得ているものである。一方、こうした協会が継続してきた事業のなかに、新たな案件が増えてきた。とくに著作権に関するものが特徴的であり、「著作権死因贈与」の相談、著作権者生前の「著作権贈与」の申し込み、著作権放棄等が一例である。加えて今期は、関係各団体や省庁との連携強化がよりすすんだ。具体的には、三田副理事長をまとめ役として、各権利者団体と継続してきた著作権者不明著作物の利用拡大のための勉強会が母体となり発展し、文化庁からの委託を受けて、「裁定制度」の緩和に向けての実証事業を 10 月から 3 月にかけて実施したこと。また教育分野の、「権利制限」のより柔軟な運用への要望に対応するため、協会が呼びかけ 4 団体のひとつとなり、権利者団体らと 12 月に協議会を発足させて活動を開始している。

財務は安定しており 6 期連続の黒字決算である。各事業の報告は以下の通りである。

公益事業 1 普及事業

1 講演会等事業

1) 文芸および著作権に関するイベント

5 年めを迎えた「文芸トークサロン〈しゃべりたい、話したい〉」は通算 40 回を超え継続している。今期はとくに、人文系の話題の新刊の著者や編集者をゲストに、読みどころを語っていただいた。「脱原発社会をめざす文学者の会」と共催している「文学サロン」も第 3 回を迎えた。また、過去 40 年間の「文学」年次アンソロジーを再編纂した、「現代小説クロニクル」全 8 巻の刊行が 2014 年 10 月から始まり 2015 年 12 月に完結したが、この刊行を記念して法政大学、講談社と共催し、「感情の創造・冒険・実験 それから」と題して公開文学イベントを開催。田中慎弥氏はじめ 5 人の講師による鼎談と対談で、会場の市ヶ谷キャンパスの教室に学生らが参加し、盛況の催しとなった。

今期は、新たに著作権管理部企画による「知る・学ぶ 体験講座」と題した実践講座を始めた。第 1 回は「利便性」をテーマに二人のゲストの講演で、ビジネス著作権検定問題を解いたり、障害者・健常者どちらにも便利な「共用品」のプレゼンテーションがあり好評だった。参加型のシリーズとして続けていく。

- 4 月 22 日《文学サロン》Vol.3 共催 脱原発社会をめざす文学者の会
「昭和の素顔」ゲスト 黒井千次（作家）
- 9 月 8 日《知る・学ぶ 体験講座》Vol.1
「みんなが便利～著作者と使用者の権利」
第 1 部 上手につかう著作権のはなし
講師 久保田 裕（コンピュータソフトウェア著作権協会）

第2部 不便さをのりこえる共用品のはなし

講師 星川安之（共用品推進機構）

- 10月22日《公開文学イベント》 共催 法政大学文学部日文科学生委員会 講談社
「感情の創造・冒険・実験 それから」

第1部 「現代小説40年」

ゲスト 島田雅彦（作家） 田中慎弥（作家） 中沢けい（作家）

第2部 「震災後の文学」

ゲスト 川村 湊（文芸評論家） 木村朗子（津田塾大教授）

- 11月19日 《出版UD研究会》

「みんなが一緒に楽しめる小さなユニバーサルシアター

“シネマ・チュプキ・タバタ”ができるまで」

プレゼンター 平塚千穂子（バリアフリー映画鑑賞推進団体「シティ・ライツ」代表）

- 9月23日《文芸トークサロン》【第36回】

関東VS関西 ここが違う！？「くらべる東西」

ゲスト おかべたかし（著述家・編集者）

- 10月21日《文芸トークサロン》【第37回】

“みっともない”の美学 世間と日本人の行動原理

ゲスト 榎本博明（著述家・心理学博士） 佐藤直樹（九州工大名誉教授）

- 11月24日《文芸トークサロン》【第38回】

なぜ、マツコ・デラックスは言いたい放題でも人に好かれるのか？

ゲスト 内藤詮人（心理学者・立正大学客員教授）

- 1月27日《文芸トークサロン》【第39回】

「一言力」を鍛えよう

ゲスト 川上徹也（コピーライター） 聞き手 小木田順子（幻冬舎新書編集長）

- 3月24日 【第40回】目でみる昭和と平成「くらべる時代」

ゲスト おかべたかし（著述家・編集者）

2) 文学碑公苑・講演会

第16回を迎えた「文学碑公苑 講演会」。貸切りバスで一般文学ファン22名、事務局員ら9名と晴天の富士霊園を訪れ、散策と昼食のあと富士霊園内富士見会館にて、村岡花子の孫である村岡美枝、恵理姉妹を講師に迎えて開催した。

演題は「“赤毛のアン” 翻訳者 村岡花子を語る」。聴き手は、協会理事長、文学者支援委員会委員長 出久根達郎氏。予定時間があっという間で「もっと話を伺いたかった」との声が参加者から聞かれた。終了後は、6月にオープンした山梨県立富士山世界遺産センターを講師とともに見学。村岡花子は大正5年に富士登山を経験しており、登頂記念写真は和装着流し姿だった等、和やかな歓談の絶えない講演会となった。

3) 著作権思想普及セミナー支援

今期も一般・教職員・図書館職員・美術館博物館等職員・行政職員など、著作権についての基礎を学びたい人たちを対象に、全国で実施される文化庁主催の「著作権セミナー」のための資料や講師派遣の案内を文化庁、教育委員会、商工会議所など関連団体に送るなど支援につとめた。また、要請のあった支援事業だけでなく、著作物利用の許諾事業での最近の事例について、協会の講演プログラムの企画や冊子の編纂、ホームページへの公開などの情報発信の研究を行った。

2 データベース事業

ホームページ上で会員名簿、著作権管理委託者などの公開情報を毎月更新、また協会声明文や要望書、編纂物や講演会等の告知、文芸関連のサイトなどを迅速にアップして広報につとめた。また、今期はK101データベースのプログラムの追加・変更を行い、マイナンバーや会員情報のセキュリ

ティを強化した。コンテンツ・ポータルサイト運営協議会に今期も参加。ポータルサイト「JAPACON」による海外に向けてのコンテンツ発信に協力した。

3 編纂事業

1) 文藝年鑑の発行

前年の文芸全般の動向とトピックを網羅する「文藝年鑑」を今期も編纂し、新潮社より発刊した。「文藝年鑑 2016」6月30日発行 定価4,400円(税別 以下同) 編纂委員/川村 湊 青山 南 紅野謙介 沼野充義 三浦雅士
編纂委員会において「概観」ページの各分野の執筆者の見直しや選定について協議をし、変更を加えた。また「便覧」をより検索しやすくするためのデザインの改訂を行った。

2) 文芸アンソロジーの発刊

休刊していた時代小説アンソロジーを「時代小説ザ・ベスト」として集英社より文庫版で刊行を開始した。これを含めて今期は以下の年次アンソロジー4冊を編纂し各出版社より刊行した。

「文学 2016」4月20日 講談社発行 定価3,500円

編纂委員/川村 湊 島田雅彦 富岡幸一郎 中沢けい 沼野充義

「短篇ベストコレクション 現代の小説 2016」6月15日 徳間書店発行 定価760円

編纂委員/川村 湊 清原康正 杉江松恋 森下一仁

「時代小説ザ・ベスト 2016」6月30日 集英社発行 定価880円

編纂委員/川村 湊 雨宮由希夫 末國善己 竹田真砂子 縄田一男

「ベストエッセイ 2016」6月25日 光村図書発行 定価2,000円

編纂委員/川村 湊 角田光代 林 真理子 藤沢 周 町田 康 三浦しをん

3) 編纂物の海外寄贈

現代日本の文芸を広め、理解してもらうために協会編纂の刊行物「文藝年鑑 2016」および「文学 2016」「短篇ベストコレクション 現代の小説 2016」「ベスト・エッセイ 2016」「時代小説ザ・ベスト 2016」の年次アンソロジーをセットにして、海外各都市の日本文学、日本文化研究センター、大学や教育機関など寄贈した。寄贈先も当初の40か所から今期は計53か所となっている。

4 文学モニュメント運営事業

静岡県駿東郡小山町、富士霊園内に管理運営している「文学碑公苑」および「文学者之墓」は協会の誇るべき財産であり、四季を通じて公開している文芸メモリアル・パークである。今期の「墓前祭」は参列者123名とともに文学者支援委員会・出久根達郎委員長、山田隆昭副委員長が出席して10月6日に執り行われた。来期からの増設プランも決定し、合わせて今期から、老朽化部分の補修工事を開始した。9月に中央階段周りの修繕と手すりの設置を完了し、順次広げていく。

5 文藝家協会ニュース発刊事業

会報紙として協会ニュースを年9回発行して、理事会報告や事業活動、委員会報告等会員に必要な情報の提供および告知につとめた。

4月に「定時総会議事資料」を制作して配布、7月号「各都市巡回イベント 第8回〈米子〉」報告と、12月号「各都市巡回イベント第9回〈富山〉」報告を別冊として発行、また1月号には「税のお知らせ」を制作、会員に配布した。

6 障害者等支援事業

障害者等支援のための「拡大写本」、「録音図書」など作成のための著作物に関して、社会福祉協議会等からの申請を受け、無償で200余件の許諾事業を行った。また、支援団体の相談を受け、図書の音声化にあたってのテキスト提供を出版社に要望し実現した。さらに協会ニュースに障害者支援の連載記事を開始したのをはじめ、日本初のバリアフリー映画館についての講演会の開催、手話通訳付きの文芸トークサロンの実施など新しい試みを実現した。

公益事業2 著作権管理事業

1 著作権管理事業

著作権の各権利者団体間ではこれまでも意見交流や勉強会を開催してきたが、最近の教育に関する動向についても注視して共同活動を行っている。とくに今期は、三田副理事長が会長を務め、平成27年から協議を継続してきた「権利者による権利者不明作品問題を考える勉強会」(通称「オーファンワークス勉強会」)が、文化庁より、〈著作権者不明等の場合の裁定制度の利用円滑化に向けた実証事業〉の委託を受けて、この実証事業実行委員会として活動した。日本文藝家協会も10月から3月までの間に計3回の裁定申請を実施した。3月21日にはJASRACの「けやきホール」を会場に、事業の報告シンポジウムを開催し、権利者団体が、自らの権利擁護だけでなく、利用者の負担を低減し著作物の流通促進に寄与していくことの重要性をアピールした活動となった。

著作権思想の普及活動、そして地方会員との交流を図るための「各都市巡回文藝イベント」は、以下のように今期2回開催しいずれも盛況であった。また、講演開催地近郊の文学館・記念館の訪問レポートも協会ニュース誌面で好評である。

各都市巡回文藝イベント

【第8回】米子 6月19日 シンポジウム「魯迅80年、漱石100年。」

パネラー 譚 璐美 (ノンフィクション作家) 森まゆみ (ノンフィクション作家・編集者)

進行 関川夏央 (作家・協会常務理事)

【第9回】富山 11月13日 シンポジウム「人口減少と文学」

パネラー 磯田道史 (歴史学者) 酒井順子 (エッセイスト)

進行 関川夏央 (作家・協会常務理事)

2 補償金等受け取りおよび分配事業

教科書等補償金は、各教科書会社へ請求し今期中に委託者へ分配した。複写使用料も、平成27年度分が平成28年に入金され、今期中に委託者への分配を終えた。

協会の分配事業のひとつ、一般社団法人 私的録画補償金管理協会 (SARVH) は平成27年3月末に業務を廃止、清算は完了している。

私的録音補償金管理協会 (SARAH) は、平成25年度および平成26年度分の補償金分配が延期されたままである。JEITA (電子情報技術産業協会) 経由のメーカー5社が補償金の単価を独自に変更したためであり、再分配の煩雑化を避けるための措置であるが、4社とは協議が整い今期内に委託者に分配した。

公益事業3 調査研究事業

1 広報・提案事業

今期も文化審議会著作権分科会、法制・基本問題小委員会等のヒアリングや協議会、研修会などに理事、事務局員が積極的に参加して、意見要望の発信、協会公益活動の広報につとめた。

12月には日本文藝家協会ほか4団体が呼びかけ人となり、「教育利用に関する著作権等管理協議会」を設置した。文化庁では、ICT (情報通信技術) を使って教育の情報化を推進するために、教育分野における著作権の権利制限の見直しが行われているが、これに対しては著作物の円滑な利用と権利保護との適切な制度設計が必要となるため、権利者団体側が一致して対応する組織を立ちあげたもので、2017年1月から幹事会を開始して運営方法や制度づくりの提案を検討している。

2 「著作権評価に関する意見書」作成事業

著作権継承者の要請に応じて、文芸作品の「著作権評価に関する意見書 (評価意見書)」を作成して、公正な著作権の評価につとめた。課題として、時間の猶予のない評価意見書作成の依頼や問い合わせが寄せられることがあり、対応に追われるケースが発生している。そのための広報を協会ニュース、ホームページ等で充実させていく。

3 連絡仲介事業

著作物利用の問合せ、相談、依頼に対して確認調査や著作権者との仲介活動を行い、著作物利用の円滑な実現につとめた。大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所からの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に公開目的のサンプルデータ提供の依頼を受けて連絡仲介をおこない、その収益を協会から各関係団体へ送金分配した。

今年も大正大学のインターシップ制度とタイアップして、8月、9月の2回に亘り学生を1名ずつ受け入れた。著作権の許諾作業用の実務の研修、また講師を呼んでのレクチャー、協会講演行事への参加など体験してもらった。協会会議室の公益利用促進は、脱原発社会をめざす文学者の会、オーファンワークス実証事業委員会、文芸出版懇談会、出版UD研究会等、利活用が広がっている。

以上
